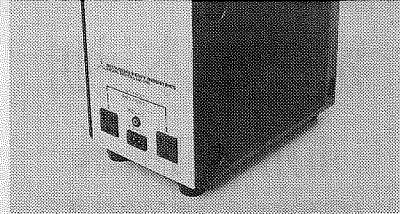


「帰宅困難者」対応 備蓄セットを販売

河本防災

河本総合防災(相模原
市中央区鹿沼台)は、災
害発生時に想定される
「帰宅困難者」の対策製
品を開発した。3日分の
食料などを職場に備蓄で
きるセット。2月中旬か
ら販売を始めた。

東京都や県では、企業
に対し、帰宅困難者対策
の努力義務を盛り込んだ
条例を4月に施行する。
同社では、今後は製品の
需要が高まるとみてお
り、インターネットなど
を通じて直販していく。



三菱重工が開発した小型電源

る切りの札になると期待。
オフィスなどの非常用電
源として需要を掘り起こ
すほか、屋外イベント向

けといった用途開拓も進
めていく。
製造と販売は、エンジ
ン式ポータブル発電機な
どを手掛ける100%子
会社の三菱重工エンジ
ンシステム(東京都品川
区)が担当する。
初年度1000台の販
売を計画。将来は、家電
量販店などの販売も想
定し、年間販売数を50
00台に引き上げたいと
している。



3日分の食料などが備蓄できるセット

「帰宅困難者対策3デ
イスマイフカプセル」と
名づけた。A4クリアフ
ァイルと同じ大きさで、
個人の机に置けるコンパ

クトサイズが売り。
従業員の多い大規模な
事業所で採用すれば、保
管場所も最小限スペース
で済むという。価格は6
825円。初年度3万台
の販売を計画する。
このほか、簡易トイレ
などが入ったトラックス
セット(1万5750
円)なども用意した。東

日本大震災の直後、交通
機関がストップしたこと
で、多くの帰宅困難者が
発生した。
こうした経験から、東
京都は4月から、従業員
1人につき「食料3日分、
飲料水9枚、毛布1枚」の
常備を求める(努力義務)
条例を施行。県でも同様
の条例を施行する。
今回、河本総合防災で
は、条例施行に先立ち、
ポータルサイト「帰宅困
難者対策.com」を開
設。サイト内で都条例が
定める備蓄目安に準拠し
た商品の取り扱いを始め
た。
同社の小川誠総務部長
は「多くの企業が有事の
体制を考え、備えをして
ほしい」と期待を寄せて
いる。
なお、河本総合防災は
防災・防犯グッズの販売
や同システムの提案のほ
かビルメンテナンスを主
力とする企業。
問い合わせは、同社0
42(752)6121。